

第 16 回 府中町公共交通協議会 議事録

■開催日時 令和 7 年 6 月 25 日（水）14 時 30 分～

■場所 府中町役場 5 階 第 2 委員会室

■出席者 委員 16 名（欠席 1 名）

■説明者 府中町建設部都市整備課

■開会の挨拶

■町長挨拶

【町長】

・現在、令和 6 年 3 月に策定した府中町公共交通計画を元に公共交通施策を進めている。
・本日の協議会から、イオンモール広島府中の方に委員として参加いただくということとなった。

・府中町では暮らし心地が一番と実感できる町づくりを多角的に展開しており、その中でも公共交通は重要な要素の一つだと認識している。引き続き府中町の地域公共交通における施策にお力添えいただきたい。

（公務の関係で退席）

■議案 1 令和 7 年度府中町公共交通協議会収支予算（案）について

【事務局】

（令和 7 年度府中町公共交通協議会収支予算（案）について説明）

【会長】

本議案について、事務局を承認するということでよいか。

【各委員】

承認する。

■議案 2 令和 8 年度地域内フィーダー系統確保維持計画について

【事務局】

（令和 8 年度地域内フィーダー系統確保維持計画について説明）

■質疑応答

【委員】

令和 6 年度のうぐいす号の利用者数の目標 4,400 人に対して実績が 4,827 人と、目標を

上回っている要因についてどう考えているか。

【事務局】

・広島第一交通さんから毎月報告書を提出していただいて利用者数を集計しており、定期的に清水ヶ丘、桜ヶ丘地域の町内会長のところに報告に行っているとともに、利用していただかないと運行が維持できず無くなってしまうということを住民の方々に共有していただいている。そういった結果、利用者数が伸びているのではないかと思う。

・利用者の方がもう一回利用したいと思ってもらえる環境を広島第一交通さんが作ってくださっているので、利用者数が伸びているのではないかと思う。

【委員】

・うぐいす号はドア to ドアで移動できるという認識で正しいか。

・つばきバスはうぐいす号と違い、ドア to ドアではないため、不公平ではないか。利用者間で意見が出るようなことはないか。

・利用者側の公平性を考えると、清水ヶ丘・桜ヶ丘地域が恩恵を受けすぎていると捉えられる可能性がある。高齢化が進んでいる地域が広がっているので、うぐいす号をもう少し拡大していく方向が見えたら嬉しい。

【事務局】

・うぐいす号はドア to ドアとは少し異なる。行きは清水ヶ丘、桜ヶ丘団地の自宅から乗り、共通乗降場所で降りる。帰りは共通乗降場所から乗り、自宅の前で降りる。

・他の高台団地からデマンドタクシー導入の要望があることはあるが、そこはつばきバスあるいは路線バス等で交通的にはある程度充足されている地域になるため、デマンドタクシーの導入は難しい。今後の社会情勢など色々な状況を加味しつつ今後も検討を続けていく。

・利用者側の公平性については、うぐいす号の料金が 200 円と、つばきバス（150 円）より若干高くなっている。

【委員】

収支としては、府中町の負担はあるのか。

【事務局】

デマンドタクシーの運行にかかる費用の総額約 560 万円から、国庫補助金と運賃収入を差し引いた額の約 290 万円を府中町が負担している。

【委員】

広島第一交通の府中営業所に所長が 1 名おり、タブレットを持って仕事をしているが、同時にたくさんの予約等が入った場合、一人では賅いきれない状況になっている。町の方で対策を考えていただきたい。

【事務局】

以前府中営業所長にヒアリングを行った際には、予約対応は府中営業所長と、他の営業所にも 2 名ほど事務員の方がいらっしゃって計 3 名で対応していただいていると伺っている。

人手が足りないというのは初めて聞いたところなので今後対策を考える。

【委員】

つばきバスが通れない狭い道路幅の団地について、うぐいす号ではなく、マイクロバスを展開させる形も考えられるのではないか。

【事務局】

つばきバスで網羅できない部分について、例えば、ワゴンタイプの車両をたくさん購入してつばきバスミニとして展開させるというのも一つの案だと思う。ただそれは、一般的なバスではなく、タクシーを展開しているようなイメージになってしまう。既存の公共交通を大事にしつつ、総合的なバランスを考えながら今後検討していきたい。

【委員】

・令和10年のうぐいす号の利用者数の目標が5,000人とのことだが、清水ヶ丘、桜ヶ丘地域がだんだんと人口が減っていることから、5,000人は本当に達成可能なのか疑問に思う。

【事務局】

・清水ヶ丘、桜ヶ丘地域の人口が減っていることや今後利用者数の伸び率が鈍化していくことを加味して目標設定している。令和6年度の実績が4,800人であるため、令和10年に5,000人は達成可能と考えている。

【委員】

府中町のコミュニティサービスでマツダとコラボするといった検討はしているか。

【事務局】

今のところ検討していないが、今後検討していきたい。

【会長】

本議案について、事務局を承認するという事でよいか。

【各委員】

承認する。

■報告1「府中町地域公共交通計画に定める評価指標と公共交通施策の進捗について」

【事務局】

(府中町地域公共交通計画に定める評価指標と公共交通施策の進捗について説明)

■質疑応答

【委員】

- ・今年をつばきバスの出前授業の実施日は決まっているか。
- ・保護者も一緒につばきバスの出前授業が受けられるようにできないか。

【事務局】

- ・毎年、小学校の方から依頼があり出前授業を実施している。今年の日程等はまだ決まっていないが、毎年9月から10月ごろに実施しているので、今年も同じ時期になると思う。
- ・保護者の方も一緒に授業を受けられるよう検討する。

【委員】

つばきバスのルート変更（JR 向洋駅北口を経由するルート）について、現在の仮設の踏切の状態ではルート変更が難しいとのことだが、どこが難しいのか。

【事務局】

・向洋駅北口から青崎第 10 踏切を通してマツダ病院へ向かう道（浜田仁保線）にゆずりあいゾーンがあるが、そこに少しでも踏切待ちの車が入っていると、つばきバスの大きさでは左折できず後続車両に影響を与える可能性がある。反対に、マツダ病院から青崎第 10 踏切を通して向洋駅北口に向かう際も、対向車が数珠つなぎに来て、バスが右折できずに立ち止まってしまうと後続車両が踏切内に閉じ込められてしまうといった懸念があり、今の道路状況では難しいと広島電鉄さんから聞いている。

・今年 5 月、広島電鉄さんをお願いして、実際につばきバスで向洋駅周辺を走ってもらい、浜田仁保線のゆずりあいゾーンを右左折せずに向洋駅北口を経由できるルートがないか検討した。

・仮線の工事について、今年度 4 線目が動く予定なので、その動向も踏まえながら、広島電鉄さんと協議を進めていきたい。

【委員】

つばきバスの車両の買い換えについて、予算はどのくらいを見込んでいるか。

【事務局】

一台 2000 万円程度の見込み。ディーゼル車両か EV 車両を検討している。

【委員】

EV 車両にする場合は、充電設備やランニングコスト等いろいろな検討要素があると思う。軽油と比較したキロあたりのランニングコストについて、広島電鉄は大型の EV バスを 2 台導入しているが、ディーゼルより高くついている。

■その他報告・質問等

【事務局】

2 点報告する。

1 点目、昨年 12 月、府中町の町内会から公共交通委員の委員宛に、府中町議会の金澤議員を通して、つばきバス路線に関する要望書の提出があった。事務局側で広島電鉄さんと現地協議を行った結果、いずれも現状では安全上の支障があり、運行困難であるという結論になった。

2 点目、次回の協議会は 12 月を予定している。開催方法や日程に関しては、決まり次第ご案内させていただく。

以上